

別海町郷土資料館 だより

No.319 2026年2月号

ふるさと講座自然系第3回目のお知らせ！ ～オジロワシ・オオワシ観察会～

- 日 時 令和8年2月14日（土）
午前9時30分～12時30分
- 場 所 集合：郷土資料館
観察場所：走古丹（風蓮湖）から尾岱沼周辺
観察場所までの移動の車は、郷土資料館で用意します。
- 講 師 NPO法人野付・エコ・ネットワーク
- 定 員 10名
- 申込み 2月12日（木）までに電話で申込みください。
- 持物等 双眼鏡・図鑑・暖かい服装。



ふるさと歴史系第3回目を実施しました。 大昔の別海～お話と擦文・アイヌ文化遺跡めぐり～

1月31日（土）参加者3名で実施しました。お話は、旧石器時代からアイヌ文化期までの歴史を振り返りながら、町内の各時代の遺跡について説明し、展示室にて土器、石器を見学しました。その後、本別海の風蓮湖に移動し、別海2遺跡・本別海2遺跡・本別海チャシ跡を見学しました。竪穴住居跡やチャシ跡を見てはるか古代の生活を思い浮かべました。



「昔のくらしと道具」を調べる授業

小学校3年生の社会科には、「昔のくらしと道具」という単元があります。1～3月は、この授業が開始され、多くの学校が当館を訪れます。

数年前から、見学するだけではなく、実際に道具を使う体験を行っています。体験する道具は、「炭火アイロン」「火のし」「洗濯板」「湯たんぽ」「灯油ランプ」で、使い慣れない道具に悪戦苦闘しながら、体験してもらいます。

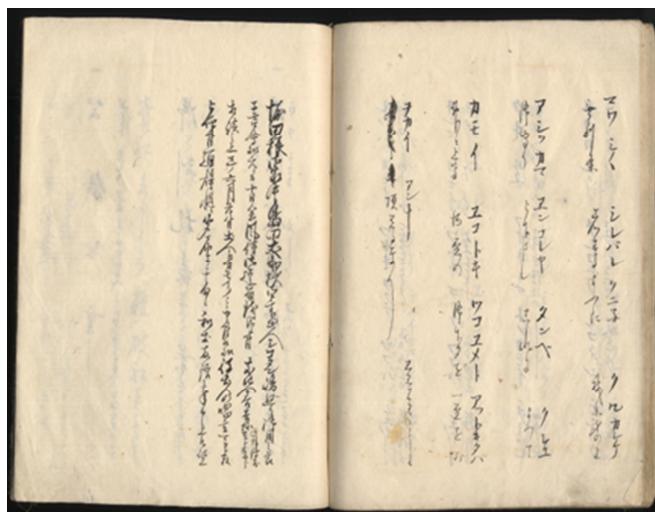
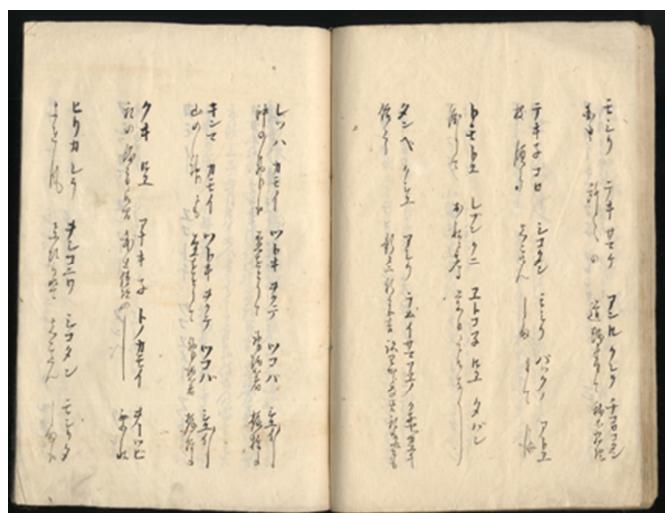
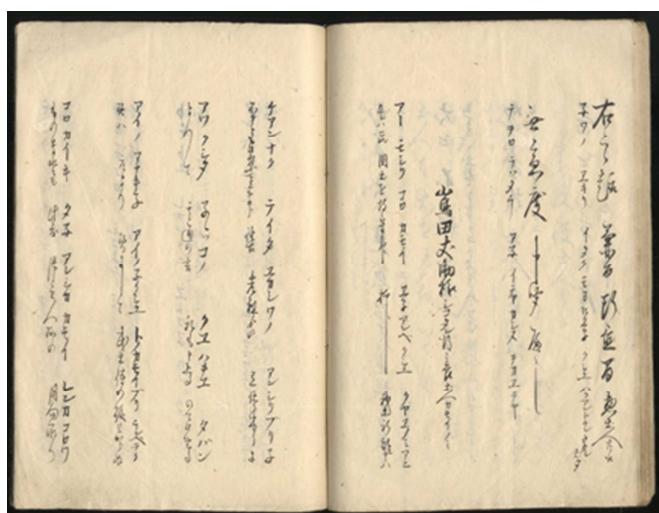


便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、準備などに手間がかかり、その取扱いも不便さを感じますが、昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることがわかったようです。

「加賀家文書」から見る近世幕末に行われた「カムイノミ」

カムイノミ（神への祈り）とは、自然界のあらゆるものに宿る「カムイ（神・靈的存在）」に対し、感謝や願い事を捧げるアイヌの伝統的な儀式です。火の神（アペフチカムイ）を介して祈りを伝え、イナウ（木幣）などを用い、日常生活から豊漁、安全祈願まで様々な場面で行われ感謝と共に精神が込められています。

「加賀家文書」に「島田丈助様シコタン行之節土人力モイノミ」という資料があります。安政4年（1857）佐倉藩の蝦夷地調査で根室に来ていた島田丈助ほか4人が、色丹島へ行く予定でしたが、風待ち（悪天候）のため10日あまり足止めされていました。根室場所支配人善吉と通辞加賀伝蔵、船頭吉五郎は相談しアイヌへ「カムイノミ」を申し付けました。その時の唱言を和語・アイヌ語で記録したのがこの資料となります。



近世に和人のために「カムイノミ」行った記録は、無いように思います。相談しアイヌ申し付けた根室場所支配人善吉や通辞加賀伝蔵は、アイヌの文化を理解していたからこそアイヌに「カムイノミ」をお願いしたと考えられます。

現代のカムイノミは、アイヌ民族だけでなく和人を含むすべての人の安全や幸せを願うものとなっています。

資料の内容など詳しくは、次号で紹介します。

別海町郷土資料館だより No.319

発行日 令和8年2月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX兼)

編集後記

比較的穏やかな1月だったかと思います。道央や道北、東北・北陸地方ではものすごい量の積雪がありましたね。2月は、道東でも大雪が降り除雪に苦労することもしばしばあると思います。少し寒い資料館ですが、ぜひ、ご来館ください。